

令和 8 年  
長野県  
農作物病害虫・雑草防除基準

別冊  
【こんにやく】

＜注意事項＞

- ・令和 7 年 11 月 30 日現在の農薬登録内容による。
- ・本防除基準をご使用になる前に、本冊に掲載されている「活用上留意する事項」「特別指導事項」「薬剤抵抗性管理」を必ずお読みください。

## こんにゃく

## ・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
41+25	アグリマイシンー１００	散布	収穫 30 日前まで	6 回以内 (但し、種いも浸漬は 1 回以内)	
M1	キノンドー水和剤 40	散布	収穫 30 日前まで	8 回以内	
－	クロールピクリン	土壌くん蒸	－	1 回	
25	ストマイ液剤 20	散布	収穫 30 日前まで	6 回以内 (但し、種いもへの処理は 1 回以内)	
1	トップジンM粉剤 DL	種いも粉衣	植付前	1 回	
M1	硫酸銅	ボルドー液を調製して均一に散布する	－	－	

## ・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫 14 日前まで	3 回以内	

- 注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。
- 注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、本冊に掲載されている「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照。）
- 注3) 使用回数は栽培期間内での回数であり、掘り上げない栽培の場合は、年をまたいだ収穫までの総使用回数なので、間違えないように注意する。
- 注4) 蚕毒・魚毒については、本冊に掲載されている「特別指導事項」「34. 野菜類の総括注意」も参照する。

散布 時期	散布薬剤と薬量 (水 1000 当り)	10a 当り 散布量	発生病害虫名 (太字は防除 重要病害虫)	注 意 事 項
植 付 直 前	トップジンM粉剤DLを種いも 10kg 当り 200g 粉衣する。		乾 腐 病 腐 敗 病 根 腐 病 白 絹 病	1. 粉衣は種いもの表面が乾燥した 状態で行う。 2. 所定量の粉剤を種いもによく付 着させるため、種いもを十分反転 する。 3. 根腐病発生は場では、植付前にク ロールピクリンで土壌消毒し、消 毒いもを植える。本剤は乾腐病、 白絹病および紋羽病に対しても 効果がある。
7 展 月 葉 上 直 旬 後	ストマイ液剤 20 100ml	3000	腐 敗 病 葉 枯 病 根 腐 病	1. ストマイ液剤 20 にかえてアグ リマイシンー１００の 1,000 倍 液を散布してもよい。 2. 葉柄および葉裏へ重点的に散布 する。
7 月 中 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 〕 〔 硫酸銅 400g 〕	3000	腐 敗 病 葉 枯 病 根 腐 病	1. この時期以降、乾燥が続くと葉 色が淡くなる亜鉛欠乏が発生し やすい。

散布時期	散布薬剤と薬量 (水 100ℓ 当り)	10a 当り 散布量	発生病害虫名 (太字は防除 重要病害虫)	注 意 事 項
7 月 下 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	300ℓ	腐 敗 病 葉 枯 病 根 腐 病	1. 日中高温時の散布は薬害発生のおそれがあるので、朝夕の気温の低いときに散布する。
8 月 上 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	300ℓ	腐 敗 病 葉 枯 病 白 絹 病 アブラムシ類 コガネムシ類	1. 日中高温時の散布は薬害発生のおそれがあるので、朝夕の気温の低いときに散布する。 2. 腐敗病病株は抜き取って処分する。 3. アブラムシ類が発生した場合はスミチオン乳剤 1,000 倍液を散布する。
8 月 下 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	350ℓ	腐 敗 病 葉 枯 病	1. この時期からボルドー液のかわりにキノンドー水和剤 40 の 600 倍液、ストマイ液剤 20、アグリマイシン 100 の 1,000 倍液のいずれかを散布してもよい。
9 月 上 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	350ℓ	腐 敗 病 葉 枯 病	1. この時期から雨や強風直後に腐敗病、葉枯病が多発する。 2. 腐敗病の発生が多い場合は、次の防除までの間に追加で、ストマイ液剤 20、アグリマイシン 100 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。
9 月 中 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	350ℓ	腐 敗 病 葉 枯 病	1. 腐敗病の発生が多い場合は、次の防除までの間に追加で、ストマイ液剤 20、アグリマイシン 100 の 1,000 倍液のいずれかを散布する。ストマイ、アグリマイシンの散布は収穫 30 日前までとする。 2. 強風により茎葉に傷が生じた場合は直ちに散布する。
9 月 下 旬	4-4 式ボルドー液 〔 生石灰 400g 硫酸銅 400g 〕	350ℓ	腐 敗 病 葉 枯 病	1. 種いもは掘り取り後、予備乾燥を十分行い、無病いもを貯蔵する。

※キノンドー水和剤 40、クロールピクリン、硫酸銅（ボルドー）は魚毒に注意する。

## ・ 除草剤

薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ゴーゴーサン細粒剤 F	全面土壌散布	植付後又は培土後 (雑草発生前) (但し、植付 30 日後まで)	1 回(ペンデメタリン 1 回)	
ゴーゴーサン乳剤				
コンボラル	全面土壌散布	植付後、培土後(萌芽前)	1 回(トリフルラリン 2 回以内、ペンデメタリン 1 回)	
トレファノサイド粒剤 2. 5	全面土壌散布	植付直後、中耕培土直後(萌芽前)	2 回以内(トリフルラリン 2 回以内)	
トレファノサイド乳剤				
プリグロックス L	雑草茎葉散布	畦間処理：雑草生育期(但し、収穫 30 日前まで)	3 回以内(ジクワット 3 回以内、ハラコート 3 回以内)	
		植付後～萌芽直前		
		植付前		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注2) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注3) 使用回数は栽培期間内での回数であり、掘り上げない栽培の場合は、年をまたいだ収穫までの総使用回数なので、間違えないように注意する。

防除時期 及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び 10a 当り使用量	使用法	注 意 事 項
植付直後、中耕培土直後(萌芽前)  全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤツリグサ科、キク科、アブラナ科を除く)	トレファノサイド乳剤 (トリフルラリン 44. 5%)  250ml	1. 水 100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	1. 既に発生している雑草には除草効果が劣るので処理時期が遅れないように散布する。 2. トレファノサイドは広葉雑草に効果が劣るので、イネ科一年生雑草の優占するほ場で使用する。 3. ゴーゴーサン、コンボラルはツユクサ、キク科雑草に効果が劣るので、これらの優占ほ場では使用しない。 4. 除草効果を高めるため砕土整地はていねいに行う。 5. 激しい降雨が予想される場合は散布しない。 6. 土壌が極端に乾いている場合は効果が劣るの
		トレファノサイド粒剤 2. 5 (トリフルラリン 2. 5%)  5 kg	1. 手または散粒機で均一に散布する。	
植付後又は培土後(雑草発生前) (但し、植付 30 日後まで)  全面土壌散布	一年生雑草	ゴーゴーサン乳剤 (ペンデメタリン 30%)  200～300ml	1. 水 100ℓに溶かし、噴霧機で均一に散布する。	
		ゴーゴーサン細粒剤 F (ペンデメタリン 2%)  5 ～ 6 kg	1. 手または散粒機で均一に散布する。	

防除時期 及び処理法	対象雑草	除草剤の種類及び 10a 当り使用量	使 用 法	注 意 事 項
植付後、培土後 (萌芽前)  全面土壌散布	一年生雑草 (ツユクサ、 キク科を除く)	コンボラル (トリフルリン 1.2%、 ペンデメタリン 1.2%)  4～6 kg	1. 手または散 粒機で均一に 散布する。	で、適湿時または適当に 湿らせてから散布する。 7. 重複散布すると薬害を 生じやすく、風によって まきむらを生じやすい ので風の無い日を選ん で均一に散布する。
植付後～萌芽直 前 畦間処理:雑草生 育期(但し、収穫 30 日前まで)  雑草茎葉散布	一年生雑草	プリグロックス L (ジクワット 7%、 パラコート 5%)  600～800ml	1. 水 100～150 ℓに溶かし、 噴霧機で雑 草の茎葉に 均一に散布 する。	1. 脱苞後のこんにゃくは、 薬害が発生しやすいの で、出芽前処理はこんに ゃくの出芽直前に行く。 2. 生育期処理はこんにゃ くの茎葉に薬液がかか ると薬害が生じるので 飛散防止カバーを使用 するなど、注意して散布 する。 3. こんにゃくの倒伏期以 降は球茎に薬害を生じ るおそれがあるので使 用しない。 4. 雑草が大きい時期は 10 a 当たり薬量を 800mlと する。 5. 散布後数時間、降雨のな い時に散布する。 6. 除草剤用の展着剤を加 用する。 7. 付近の作物にかからな いように注意する。

## こんにゃく雑草防除体系

		出芽期	生育期
植付直後	<div> <div> <div>トレファノサイド乳剤 250ml</div> <div>トレファノサイド粒剤 2. 5 5 kg</div> <div>ゴーゴサン乳剤 200～300ml</div> <div>ゴーゴサン細粒剤 F 5～6 kg</div> <div>コンボラル 4～6 kg</div> </div> <div>全面土 壌散布</div> </div>	+ 培土、敷わら+プリグロックス L 600～800ml	
		<div> <div>倒伏期以降は球茎に薬害 の生じるおそれがあるので 使用しない。</div> </div>	